

1 荒川区立図書館案内

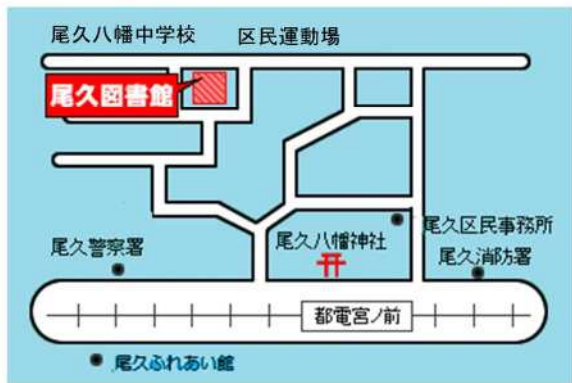
(1) 所在案内図



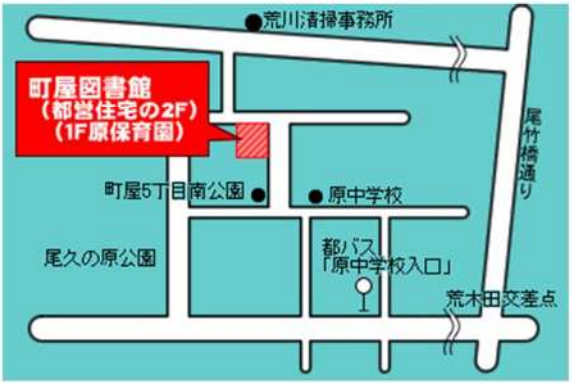
ゆいの森あらかわ (中央図書館)



南千住図書館



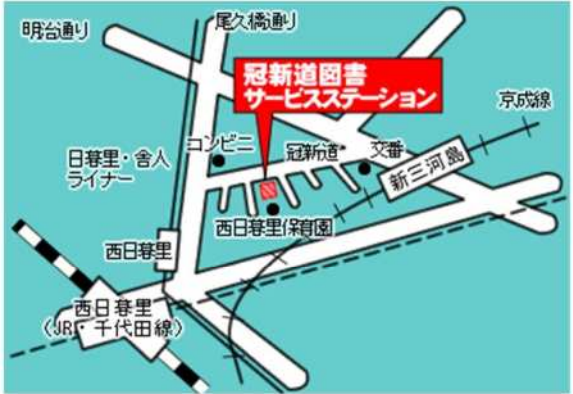
尾久図書館



町屋図書館



日暮里図書館



汐入図書館サービスステーション



冠新道図書館サービスステーション

ゆいの森あらかわ (中央図書館)	荒川2-50-1	☎ 03-3891-4349
南千住図書館	南千住6-63-1	☎ 03-3807-9221
尾久図書館	西尾久3-12-12	☎ 03-3800-5821
町屋図書館	町屋5-11-18	☎ 03-3892-9821
日暮里図書館	東日暮里6-38-4	☎ 03-3803-1645
汐入図書館サービスステーション	南千住8-12-5-114 べるぼーと汐入東館1F	☎ 03-3807-8130
冠新道図書館サービスステーション	西日暮里6-25-14	☎ 03-3800-3321

(2) 各図書館の施設概要(平成29年3月31日現在)

ア ゆいの森あらかわ(中央図書館)

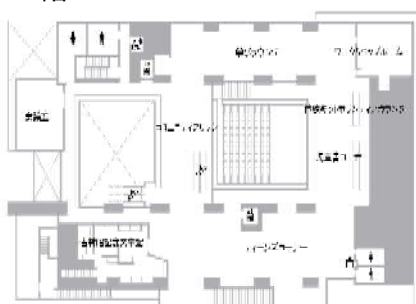
所在地	荒川区荒川2-50-1	電話	03-3891-4349
開設年月日	平成29年3月26日	FAX	03-3891-4350
敷地面積	4,110.88㎡	建物	鉄筋コンクリート造 地上5階、地下1階 延床面積10,943.74㎡
交通機関	都電荒川線荒川二丁目(ゆいの森あらかわ前)停留場下車徒歩1分 東京メトロ千代田線町屋駅・京成上野線町屋駅下車徒歩8分 コミュニティバス「さくら」ゆいの森あらかわ停留所下車((土)・(日)・(祝)のみ運行)		
併設	吉村昭記念文学館(2階、3階)、ゆいの森子どもひろば(1階、2階)		
設備	点字ブロック、自動ドア、エレベータ、エスカレータ、優先トイレ、対面音訳室、録音室、ベビーステーション、託児室、AED、発電機、備蓄倉庫		
座席数	約800席(予約が必要な研究席(4階)、学習席(5階)を含む)		
無線LAN	ノートPC4台 全館無線LAN		
職員数	76名 平成29年4月1日現在ゆいの森課		
所蔵資料	一般書	260,183冊	CD 10,049点
	児童書	45,803冊	DVD 299点
	地域行政・HS資料	30,675冊	視聴覚資料計 10,348点
	雑誌	12,926誌	
	新聞	48紙	
	蔵書冊数	349,587冊	
利用状況	平成28年度個人登録者数	7,990人	平成28年度入館者数 151,713人
	平成28年度貸出利用者数	63,681人	平成28年度総個人貸出点数 179,847点
特色	約60万冊の蔵書規模を有する区の中央図書館・吉村昭記念文学館・ゆいの森子どもひろばが一体となった、あらゆる世代が活用できる施設です。利用者が自ら学び体験し、人と人とが交流できる地域の文化やコミュニケーションの拠点づくりを目指します。また、災害時には帰宅困難者の受け入れや乳幼児を中心とした避難所としても活用できるよう、免震構造を採用し、発電機や備蓄倉庫も備えています。		

利用状況は、荒川図書館(平成28年12月19日閉館)とゆいの森あらかわ(平成29年3月26日～31日)の実績を合計したものです。

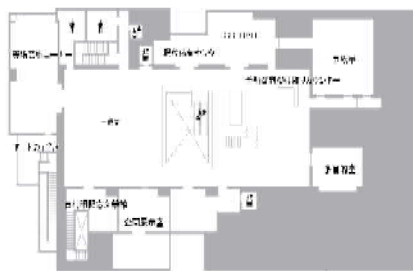
1階



2階



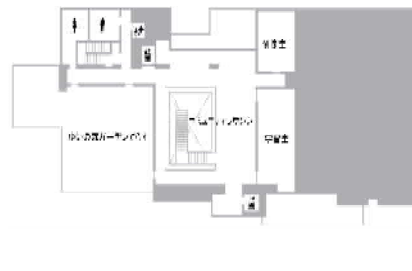
3階



4階

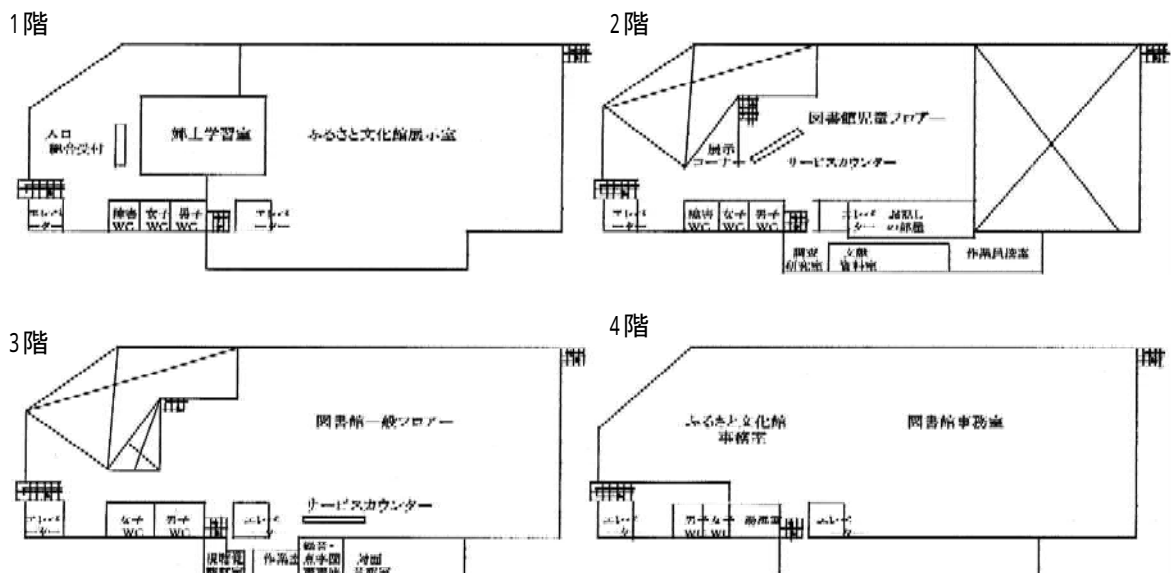


5階



イ 南千住図書館

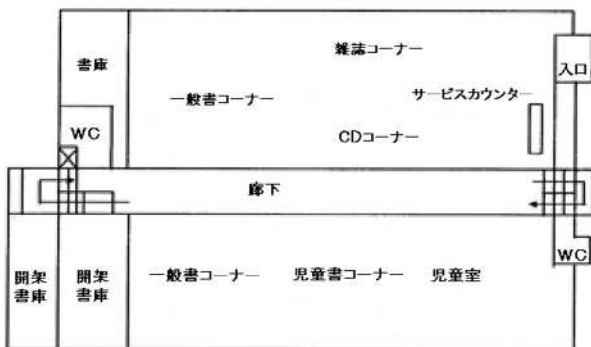
所在地	荒川区南千住6-63-1	電話	03-3807-9221	
開設年月日	平成10年5月1日	FAX	03-3803-7744	
敷地面積	2,723.96㎡	建物	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)地上4階、地下1階、 塔屋のうち2階、3階、4階部分 延床面積2,686.10㎡、建物合計5,270.69㎡ (荒川ふるさと文化館延床面積2,584.59㎡)	
交通機関	JR常磐線南千住駅・東京メトロ日比谷線南千住駅・つくばエクスプレス南千住駅下車徒歩10分 東京メトロ日比谷線三ノ輪駅・都電荒川線三ノ輪橋停留場下車徒歩15分 コミュニティバス「さくら」南千住図書館停留所下車徒歩2分 都バス千住大橋停留所下車徒歩2分 京成上野線千住大橋駅下車徒歩10分			
併設	荒川ふるさと文化館			
設備	点字ブロック、自動ドア、エレベータ、車いす用トイレ、対面音訳室、防音室、ベビーステーション、AED			
座席数	146			
無線LAN	ノートPC4台、LANカード4枚貸出し			
職員数	31名(汐入図書サービスステーション含む)			
所蔵資料	一般書 児童書 地域行政資料 HS資料 雑誌 新聞	92,324冊 30,674冊 4,819冊 208冊 11,626冊 11誌	CD カセットテープ ビデオテープ DVD 16ミリフィルム 学校教育用ビデオDVD 視聴覚資料計 映写機	12,018点 2,070点 1,905点 1,715点 936本 768点 19,412点 7台
利用状況	平成28年度個人登録者数 平成28年度貸出利用者数	19,274人 164,069人	平成28年度入館者数 平成28年度総個人貸出点数	320,461人 484,845点
特色	区立図書館の中央館機能をゆいの森あらかわに移管した後も、28万冊の蔵書を収蔵可能な中規模館として運営しています。荒川区の歴史・文化を楽しみながら学び、探究できる荒川ふるさと文化館と共同した取り組みを実施するとともに、「俳句のまち あらかわ」にちなんだ松尾芭蕉等に関連するコーナーを設置しています。			



ウ 尾久図書館

所在地	荒川区西尾久3-12-12	電話	03-3800-5821	
開設年月日	昭和46年9月23日	FAX	03-3800-5822	
敷地面積	1,328.94㎡	建物	鉄筋コンクリート3階建 延床面積1,201.82㎡	
交通機関	都電荒川線宮ノ前停留場下車徒歩10分 都バス西尾久三丁目停留所下車徒歩10分			
併設	なし			
設備	スロープ、点字ブロック、自動ドア、車イス用トイレ、ベビーステーション、AED			
座席数	135			
無線LAN	デスクトップPC3台、LANカード3枚貸出し			
職員数	14名			
所蔵資料	一般書	76,956冊	CD	7,636点
	児童書	22,937冊	視聴覚資料計	7,636点
	地域行政資料	1,602冊		
	HS資料	25冊		
	雑誌	6,977冊		
	新聞	11紙		
	蔵書冊数	108,497冊		
利用状況	平成28年度個人登録者数	8,936人	平成28年度入館者数	166,483人
	平成28年度貸出利用者数	81,978人	平成28年度総個人貸出点数	256,878点
特色	<p>区の北西部に位置し、尾久八幡神社や東京女子医大東医療センターに近く、閑静な住宅街の中にあり、小庭園もあって緑に囲まれた環境にあります。自然科学、医療、言語、海外文学などの図書を多く所蔵しています。3階の独立した学習室は、窓を大きくとってあり、開放的で人気があります。</p> <p>なお、尾久図書館については、現在、尾久地域に設置を計画している宮前公園の中に、地域のシンボルとなるような建物として整備する予定です。</p>			

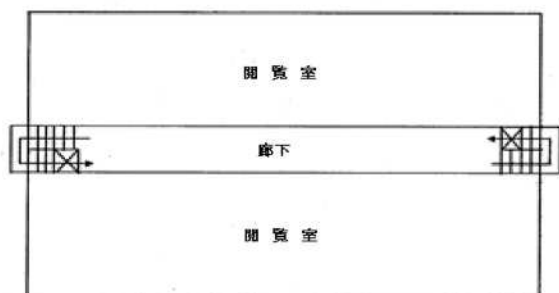
1階



2階



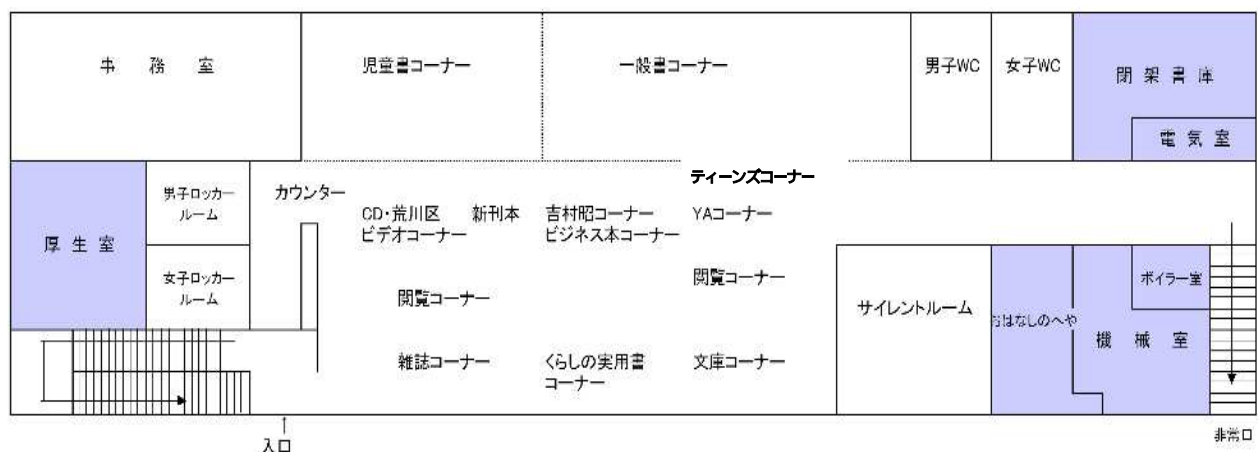
3階



工 町屋図書館

所在地	荒川区町屋5-11-18	電話	03-3892-9821	
開設年月日	昭和51年10月1日	FAX	03-3892-9822	
敷地面積	都営住宅敷地内	建物	鉄筋コンクリート3階建内2階部分 延床面積1,045.44㎡	
交通機関	東京メトロ千代田線町屋駅・京成本線町屋駅下車徒歩20分 都電荒川線町屋駅前停留場下車徒歩20分 都バス原中学校入口停留所下車徒歩3分			
併設	原保育園、都営住宅			
設備	スロープ、車椅子昇降機、呼び出し用チャイム、ベビーステーション、AED			
座席数	95			
無線LAN	デスクトップPC3台、LANカード3枚貸出し			
職員数	14名			
資料・機材	一般書	83,199冊	C D	7,393点
	児童書	25,758冊	視聴覚資料計	7,393点
	地域行政資料	1,613冊		
	HS資料	19冊		
	雑誌	7,858冊		
	新聞	11紙		
	蔵書冊数	118,447冊		
利用状況	平成28年度個人登録者数	7,855人	平成28年度入館者数	132,177人
	平成28年度貸出利用者数	78,513人	平成28年度総個人貸出点数	240,646点
特色	階下には原保育園、前には原中学校、隣には公園、近くには隅田川・都立尾久の原公園・首都大学東京健康福祉学部があります。保育園・中学校と連携した事業を進めたり、公園ではおはなし会を実施するなど、立地を生かした取り組みを進めています。 ワンフロア で明るく、文庫本、技術、環境、産業、日本文学などの図書を多く所蔵しています。			

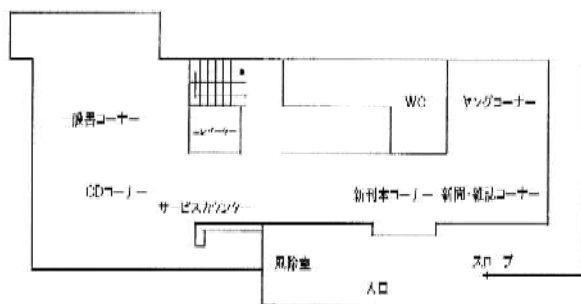
2階



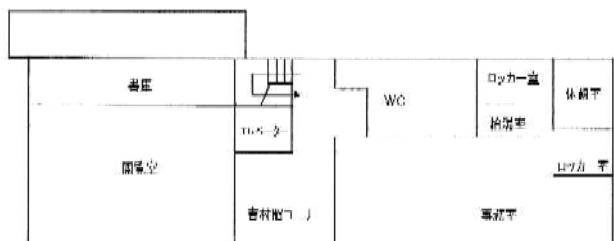
オ 日暮里図書館

所在地	荒川区東日暮里6-38-4	電話	03-3803-1645	
開設年月日	昭和54年6月11日	FAX	03-3803-1646	
敷地面積	893.92㎡	建物	鉄筋コンクリート地上2階地下1階建 延床面積1,369.66㎡	
交通機関	JR 山手線・常磐線・京浜東北線日暮里駅下車徒歩10分 JR 常磐線三河島駅下車徒歩10分 京成本線日暮里駅下車徒歩10分 都バス大下停留所下車徒歩7分			
併設	なし			
設備	スロープ、点字ブロック、自動ドア、エレベータ、車イス用トイレ、ベビーステーション、AED			
座席数	118			
無線LAN	デスクトップPC3台、LANカード3枚貸出し			
職員数	20名(冠新道図書サービスステーション含む)			
資料・機材	一般書	72,149冊	CD	7,630点
	児童書	27,436冊	視聴覚資料計	7,630点
	地域行政資料	2,273冊		
	HS資料	24冊		
	雑誌	6,751冊		
	新聞	11紙		
	蔵書冊数	108,633冊		
利用状況	平成28年度個人登録者数	11,116人	平成28年度入館者数	215,847人
	平成28年度貸出利用者数	112,318人	平成28年度総個人貸出点数	301,417点
特色	<p>学生や通勤帰りの方によく利用されています。経済、財政、民俗、ハングル図書などを多く所蔵しています。2階には、荒川区出身で区民栄誉賞を受賞した作家・吉村昭氏の作品や自筆原稿などを展示した「吉村昭コーナー」があります。平成25年6月には、吉村昭氏の震災関連の展示を天皇陛下がご覧になりました。</p> <p>なお、日暮里図書館は大規模改修工事のため、平成29年10月2日から平成30年4月20日まで休館となり、休館中の資料の返却・予約資料の受取りは、日暮里ひろば館(荒川区西日暮里2-10-9)1階の日暮里図書館臨時ひろば館窓口を開設。</p>			

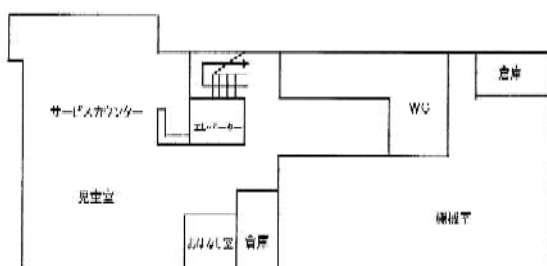
1階



2階

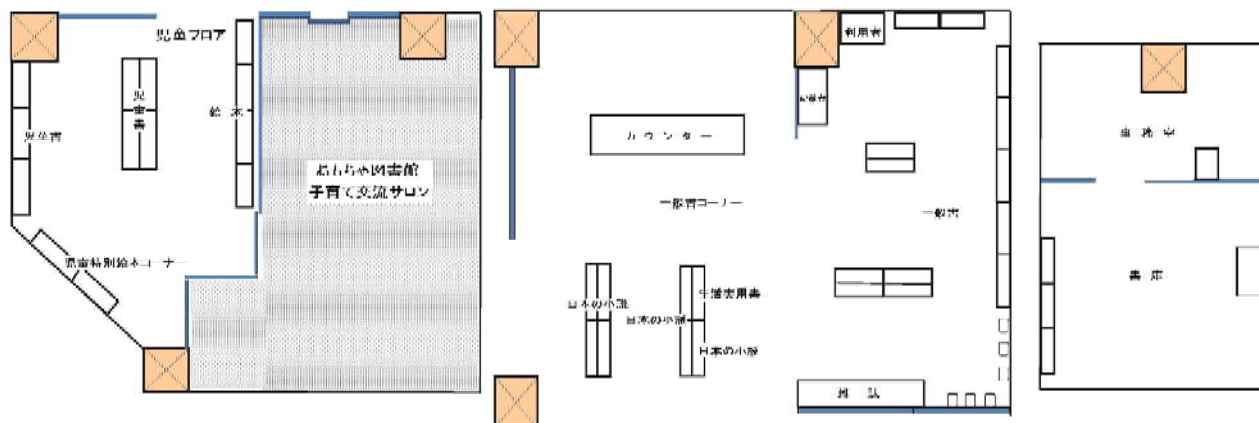


地階



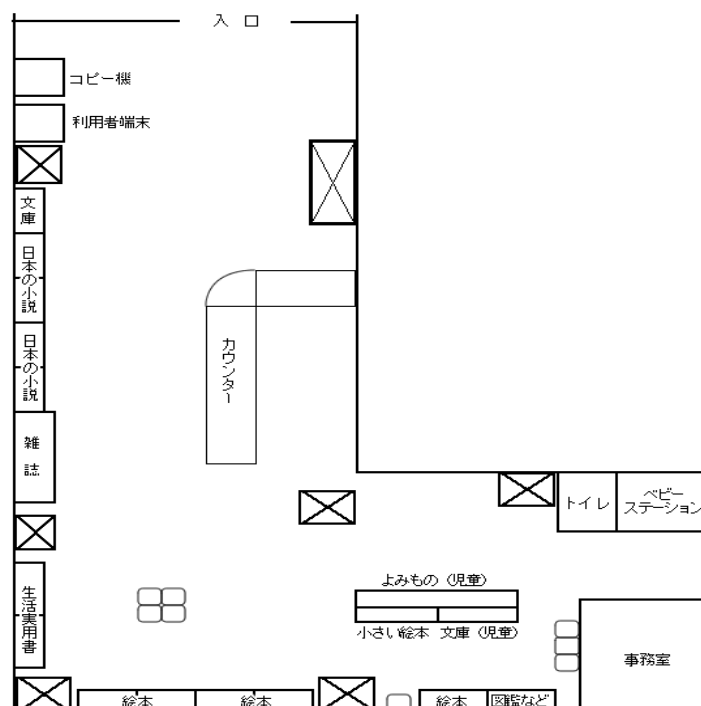
カ 汐入図書サービスステーション

所在地	荒川区南千住8-12-5 - 114 べるぼーと汐入東館1F	電話	03-3807-8130	
開設年月日	平成19年9月8日 (平成22年12月18日拡張) (平成25年10月1日拡充)	FAX	03-3807-8130	
敷地面積	べるぼーと汐入東館内	建物	鉄筋コンクリート造地上3階地下1階のうち1階 延床面積124.07㎡ (既存部分68.85㎡、拡張部分25.32㎡、 拡充部分29.90㎡)	
交通機関	JR常磐線南千住駅・東京メトロ日比谷線南千住駅・つくばエクスプレス南千住駅下車徒歩15分 都バス南千住汐入・はなみずき通り中央停留所下車徒歩2分 京成上野線京成関屋駅・東武伊勢崎線牛田駅下車徒歩10分			
併設	なし			
設備	なし			
座席数	8			
無線LAN	なし			
職員数	南千住図書館に含む			
所蔵資料	一般書	7,775冊	CD	0点
	児童書	5,398冊	視聴覚資料計	0点
	地域行政資料	153冊		
	HS資料	0冊		
	雑誌	469冊		
	新聞	0紙		
	蔵書冊数	13,795冊		
利用状況	平成28年度個人登録者数	4,370人	平成28年度入館者数	164,362人
	平成28年度貸出利用者数	70,976人	平成28年度総個人貸出点数	175,683点
特色	<p>南千住図書館から遠い汐入地域の区民に対する図書館サービスの充実と、急増する子育て世代の教育環境の整備のために、べるぼーと汐入商店街振興組合の空き店舗を借りて、南千住図書館の分室として活動しています。</p> <p>絵本や実用書主体の小規模な分室ですが、区内の図書館の資料を取り寄せ、ここで借りて、ここに戻すことができます。拡張した児童フロアは、荒川区社会福祉協議会が運営する「汐入おもちゃ図書館・子育て交流サロン」と隣接しています。平成25年10月にはフロアを拡充し蔵書を増やしました。</p>			



キ 冠新道図書サービスステーション

所在地	荒川区西日暮里6-25-14	電話	03-3800-3321
開設年月日	平成21年11月14日	FAX	03-3800-3321
敷地面積	マンション兼店舗ビル内	建物	鉄筋コンクリート造地上6階のうち1階 延床面積181.44㎡
交通機関	JR 山手線・京浜東北線西日暮里駅・東京メトロ千代田線西日暮里駅下車徒歩15分 都バス西日暮里六丁目・新三河島停留所下車徒歩2分 京成上野線新三河島駅下車徒歩5分 日暮里舎人ライナー西日暮里駅下車徒歩12分		
併設	なし		
設備	スロープ、自動ドア、ベビーステーション、AED		
座席数	11		
無線LAN	なし		
職員数	日暮里図書館に含む		
所蔵資料	一般書	6,312 冊	CD 0点
	児童書	4,946 冊	視聴覚資料計 0点
	地域行政資料	106 冊	
	HS資料	0 冊	
	雑誌	524 冊	
	新聞	0 紙	
	蔵書冊数	11,888 冊	
利用状況	平成28年度個人登録者数	1,997 人	平成28年度入館者数 61,721 人
	平成28年度貸出利用者数	38,418 人	平成28年度総個人貸出点数 101,016 点
特色	<p>日暮里図書館から遠い西日暮里地域の区民に対する図書館サービスの充実のために、冠新道商興会に面するマンション兼店舗1階の一室を借りて、日暮里図書館の分室として活動しています。</p> <p>絵本や実用書主体の小規模な分室ですが、区内の図書館の資料を取り寄せ、ここで借りて、ここに戻すことができます。ベビーステーションを設置し、子ども連れの利用にも便利なため、多くの親子連れの方にご利用いただいています。</p>		



(3) 図書館施設の充実に向けて

ア 「ゆいの森あらかわ」の開館

平成29年3月26日、中央図書館・吉村昭記念文学館・ゆいの森子どもひろばが、一体となった、あらゆる世代が活用できる施設「ゆいの森あらかわ」が開館しました。

区の中央図書館と位置づけられる図書館は、約60万冊の蔵書規模の書架や800席を超える座席を備え、新たな発見と読書の楽しみを提供します。また、荒川区出身で「戦艦武蔵」や「三陸海岸大津波」、「ポーツマスの旗」などで著名な作家・吉村昭氏を記念する吉村昭記念文学館では、郷土愛の醸成や文学に親しむきっかけを提供します。ゆいの森子どもひろばでは、科学実験やワークショップ等を通じて子どもたちの夢や生きる力を育みます。さらに、災害時には帰宅困難者の受け入れや乳幼児を中心とした避難所としても活用できるよう、免震構造を採用し、発電機や備蓄倉庫も備えています。

本施設の整備によって、利用者が自ら学び体験し、人と人が交流できる地域の文化やコミュニケーションの拠点づくりを目指します。



事業経過

平成 18 年	4 月	これからの図書館調査懇談会報告	
	11 月	文学館のあり方に関する懇談会の設置	(~19 年 3 月)
平成 19 年	6 月	(仮称) 吉村昭記念文学館基本構想委員会の設置	(~20 年 3 月)
平成 20 年	7 月	(仮称) 吉村昭記念文学館推進委員会の設置	(~26 年 3 月)
平成 21 年	10 月	施設用地取得	
	11 月	複合施設の設置及び運営に関する懇談会の設置	(~22 年 3 月)
平成 23 年	7 月	(仮称) 荒川二丁目複合施設基本計画策定	
平成 24 年	3 月	荒川地区都市再生整備計画策定	
	10 月	(仮称) 荒川二丁目複合施設基本設計及び展示基本設計完了	
平成 26 年	3 月	(仮称) 荒川二丁目複合施設実施設計完了	
	10 月	施設の建設工事着手	
平成 27 年	2 月	施設の愛称名を「ゆいの森あらかわ」に決定	
		吉村昭記念文学館展示等検討委員会の設置	
	3 月	吉村昭記念文学館友の会設立	
平成 28 年	1 月	施設のロゴマーク決定	
	7 月	荒川区立ゆいの森あらかわ条例の制定	
平成 29 年	1 月	竣工	
	3 月	開館	

ゆいの森あらかわの由来

人と人、本と人、地域と人、文化と人が結びつき、楽しみ・学び・安らげる、豊かな森のような施設となるよう名づけました。

ロゴマークの由来

施設の三つの機能である、図書館、吉村昭記念文学館、子ども施設を「樹木」と「本」で表現し、本の部分は「ゆいの森」の頭文字「Y」を表現しています。



ゆいの森あらかわロゴマーク

開館記念イベント

平成 29 年

- 3月26日 開館セレモニー
弦楽四重奏演奏会 出演：東京藝術大学 Quartet Xeno
- 29日 超大型絵本がやってくる『おまえうまそうだな』 作・絵 宮西達也/ポプラ社
出演：株式会社ポプラ社読書アドバイザー堀玲子氏
- 4月 1日 ガリレオ工房の理科読ショー 出演：NPO法人ガリレオ工房理事長 滝川洋二氏
- 8日 講演会「明日を豊かに生きる - ゆいの森は自分探しの宝島 -」
出演：ノンフィクション作家柳田邦男氏
- 15日 講演会「立ち上がって生きる勇気を与える図書館 - 2001年公開ジブリ映画『千と千尋の神隠し』を参考に -」 出演：聖学院大学理事長 阿久戸光晴氏
- 22日 講演会「事実のおもしろさ、嘘のおもしろさ - 北海道・樺戸監獄をめぐるドラマ -」 出演：跡見学園理事長 森鷗外記念館（津和野）館長 山崎一穎氏
出演：ノンフィクション作家 柳田邦男氏
- 5月5日 講演会「地球目線を育もう」 出演：京都造形芸術大学教授 竹村真一氏
- 13日 講演会「文化を楽しむ」 出演：東京国立博物館館長 銭谷眞美氏



施設機能の基本的な考え方

中央図書館機能

荒川区立中央図書館として、全ての世代の読書活動や課題解決の支援と、地域文化の情報発信の拠点とします。

- ・様々な課題解決を支援するレファレンスカウンターやビジネス支援カウンター、時事に沿った特集コーナー等の設置
- ・赤ちゃんから高齢者までだれもが楽しめる絵本館
- ・屋外テラス席や会話を楽しめるグループ席、静かに過ごせる緑陰読書席などの座席

吉村昭記念文学館機能

吉村文学の魅力を広く発信し、その精神を次代へと引き継ぐこと、また、吉村文学をきっかけとして区の文化の更なる振興へとつなげる場とします。

- ・生い立ちから「戦艦武蔵」発表までを時期別に紹介するほか、主な取材地や、作品に描かれたふるさと荒川区、妻であり作家の津村節子氏の文学世界等を紹介
- ・吉村氏の書斎を再現し、作品執筆の臨場感を演出
- ・紹介映像等の閲覧、展示解説等の実施
- ・企画展示スペースは、館全体の展示等のスペースとしても活用

ゆいの森子どもひろば機能

親子の安全な遊び場と小・中学生の居場所を中心に、子どもたちが本や実体験を通して学び、多様な発見・体験ができる場とします。

- ・「読み聞かせ」から「体験キット」、「ワークショップ」、「発表」までが一連の流れとなる多様な体験事業を展開（体験事業例：星空学習、環境学習、科学実験）
- ・安全な居場所として、乳幼児向けや小中学生向けの交流遊び場を提供
- ・乳幼児を対象に時間単位の託児を実施

防災機能

災害時に乳幼児を中心とした避難所として活用します。

- ・乳幼児の避難所対応に必要な備蓄品のほか発電機を準備
- ・平常時から避難訓練、避難所開設訓練等を実施
- ・発災直後からこころのケア等、様々な課題に沿った本の提供体制を準備

その他の機能

利便性の向上のため、その他様々なサービスを実施します。

- ・館内の本を持って入れるカフェ
- ・館内の全てのフロアに無線LANを完備
- ・インターネットで学習席やイベントを簡単予約
- ・新聞記事が検索できるデータベースの提供
- ・自動貸出機や読書履歴印刷機の設置

ゆいの森あらかわの外観

「知恵と知識が集まる緑豊かな丘」を外観のコンセプトとして、建物自体が街並みを創りだしながら周囲と調和し、圧迫感を軽減するデザインとしています。

- ・周囲の町並みに溶け込み近隣への圧迫感を軽減する、分節化したボリューム計画
- ・壁面は荒川区の地域性・歴史性に配慮し、自然な素材感で区民から長く愛されるあたたかみと親しみの感じられるレンガ調のタイルを使用



東面



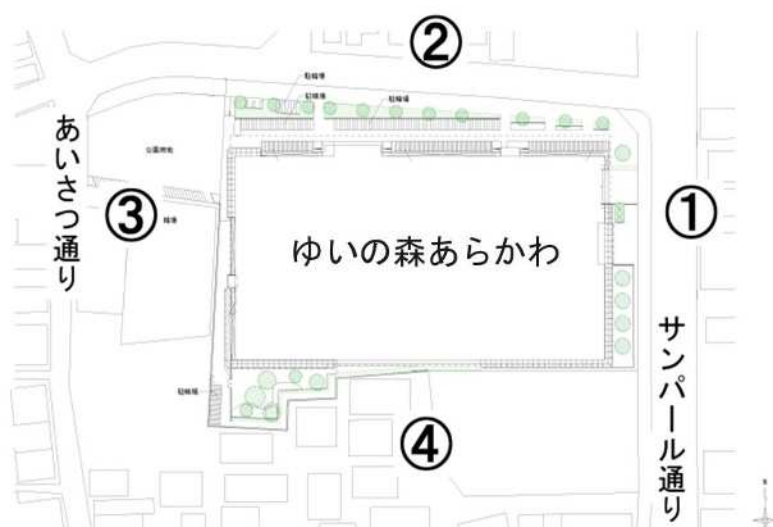
西面



北面



南面



ゆいの森あらかわのフロア構成

各諸室が独立して存在するのではなく、全体が融合しながらそれぞれの活動を触発し合うよう、間仕切を極力設けず連続した「広場」的な空間を1階から5階まで積層し、吹き抜けを通じて全階をつなぎます。



1階の主な構成

- ・誰もが楽しめる3万冊の絵本を所蔵し絵本の魅力を発信するほか、絵本研究を支援する 絵本館・おはなしの部屋
- ・イベントがない時は閲覧席等に活用できる絵本に囲まれたゆいの森ホール
- ・遊びを通じた発育を促す遊具を設置した、雨の日でも安心なあそびラウンジ
- ・乳幼児を対象に有料で時間単位の託児を実施し、子育て世代を支援する託児室
- ・音訳室と専用の相談カウンター等を設置した障がい者サービスコーナー
- ・本の持込みが可能なカフェ

ゆいの森ホール



えほん館



託児室

子どもてらす

遊びラウンジ

おはなしの部屋

ベビーステーション

交流都市・幸せリーグローナー

障がい者サービスコーナー

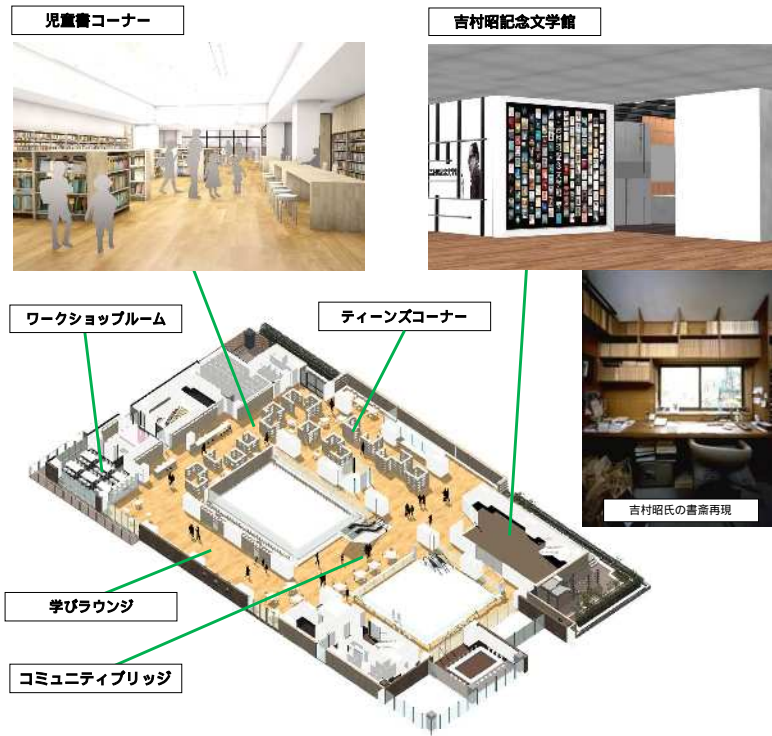
総合カウンター

カフェ



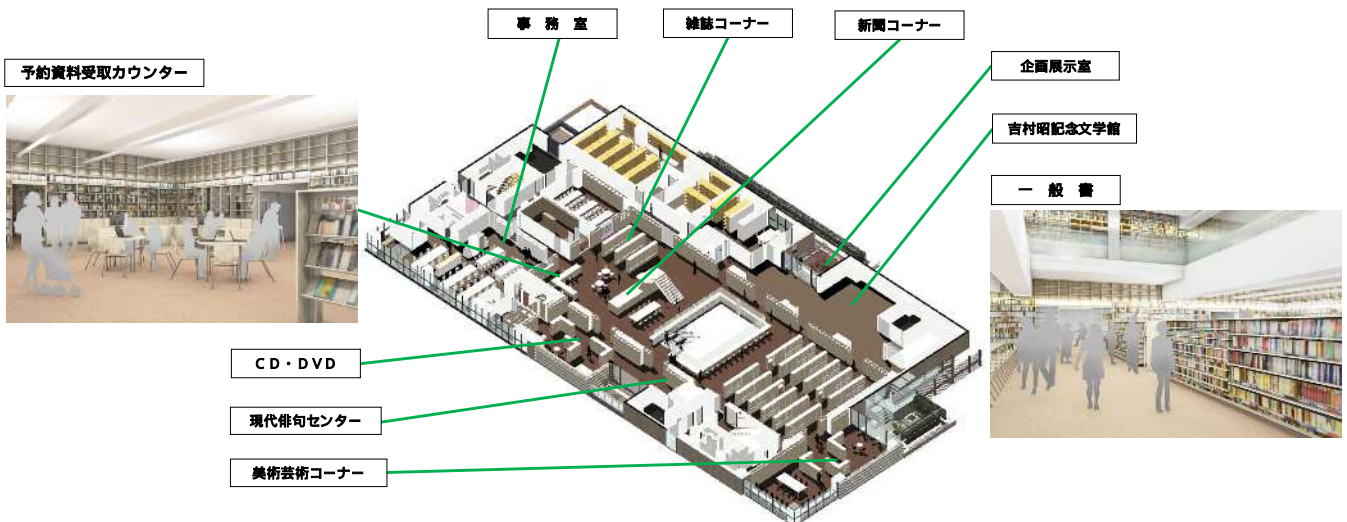
2階の主な構成

- ・吉村昭氏の作品や足跡に触れられ、再現する書斎では椅子に座る体験ができる吉村昭記念文学館
- ・グループ活動や打ち合わせ、ミニワークショップ等の開催場所としても活用できるコミュニティブリッジ
- ・体験キットやワークショップ等で実体験を提供し、遊びから学びへとつなげる体験エリア
- ・10代向け図書の充実と、仲間と話をしながら学習等ができるスペースを備えたティーンズコーナー
- ・小中学生を中心とした居場所となる学びラウンジ
- ・3万冊の読みものや図鑑等を所蔵する児童書コーナー



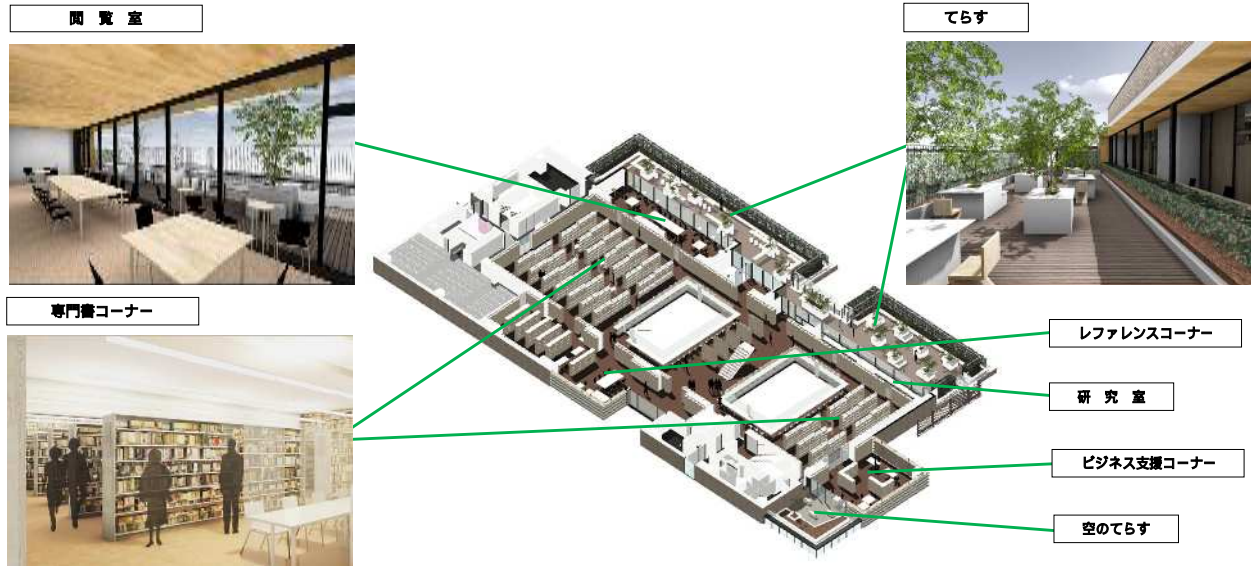
3階の主な構成

- ・文学館の企画展をはじめ様々な展示を行う企画展示スペース
- ・国内外の俳句資料を備えた「現代俳句センター」
- ・常に新しい情報を提供する雑誌・新聞コーナー
- ・小説・文庫本などを中心に排架する一般書コーナー
- ・文化・芸術の土壌を育み、豊かな余暇を支援する美術・芸術コーナー



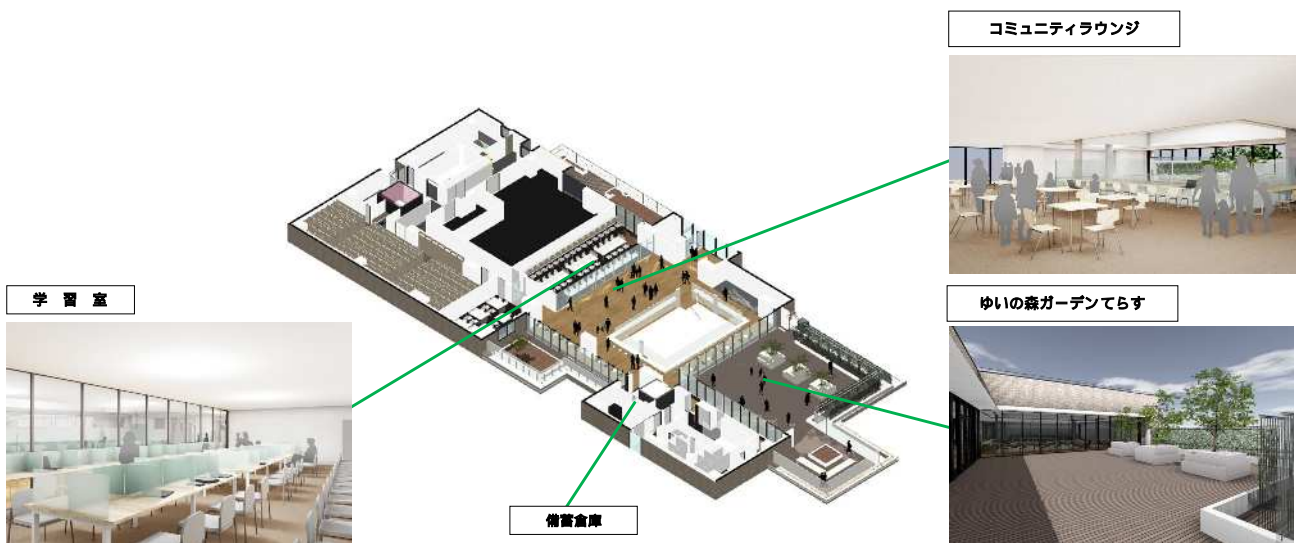
4階の主な構成

- ・来館者の向学心や向上心を満たす専門書コーナー
- ・ビジネス関連パスファインダー(調べ案内)やデータベース等を活用し、就労・起業等を支援するビジネス支援コーナー
- ・参考図書や新聞記事が検索できるデータベース等で、調べものや様々な課題解決を支援するレファレンスコーナー
- ・緑に囲まれながら読書が楽しめる緑陰テラス



5階の主な構成

- ・来館前にインターネットで予約が可能な、施設内で最も静かな学習席
- ・椅子やテーブルを自由に動かして会話を楽しめるコミュニティラウンジ
- ・緑に囲まれながら読書が楽しめる緑陰テラス
- ・水害の際にも影響を受けない備蓄倉庫



イ 吉村昭記念文学館

吉村昭記念文学館は、吉村昭の功績を顕彰し、吉村文学を契機として幅広い文化領域と連携し、区の文化のさらなる振興へ寄与することを目指しています。

吉村昭記念文学館の目的

- ・吉村昭の功績を顕彰し、その作品世界を研究する。
吉村文学に関する研究拠点として、関連資料の収集・保存をはじめとする様々な活動を展開することにより、吉村の作品が、広く、未永く、読み継がれることに貢献します。
- ・吉村文学に親しみ、文学を通して心を育む場を作る
様々なテーマを持つ吉村文学に親しむとともに、吉村文学を契機として更に広範な文学に親しみ、心を豊かにし、知的好奇心を満足させることができる空間を提供します。
- ・吉村文学を契機として、幅広い文化領域と連携し、荒川区における文化の醸成を図る
吉村文学を核として、広範な文化領域とも連携した事業を展開し、区民の文化活動の活性化と荒川区における文化の醸成に寄与します。
- ・吉村文学を育んだ荒川区の魅力を内外に発信する
日本各地はもとより海外にも及ぶ吉村文学の舞台。これらの地域や周辺地域と交流、連携を図りながら、小説家、吉村昭の功績とその作品世界、そして、吉村氏を育んだ荒川区の魅力を内外に紹介します。

フロアマップ



常設展示

・展示ゾーン

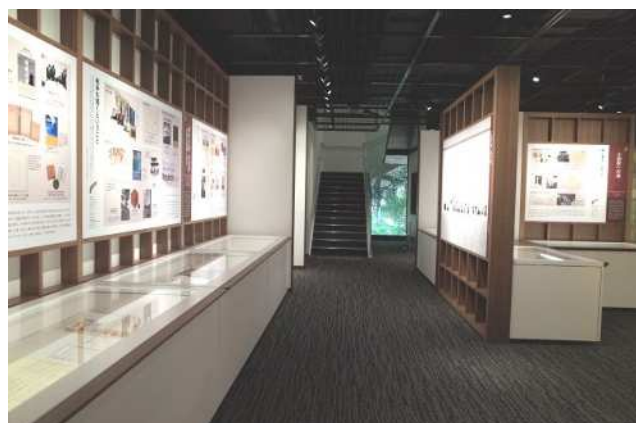
荒川区出身の小説家、吉村昭の生涯をさまざまな資料とともに紹介します。

吉村は、昭和2年5月1日、東京府北豊島郡日暮里町大字谷中本（現荒川区東日暮里六丁目）に生まれました。そして、昭和20年4月13日の空襲で家が焼失するまでの18年間に荒川区で過ごしました。幼少の頃から、家族の死や戦争、そして、自らも死の危険を伴う肋骨切除の手術を経験します。時代が大きく変化する中で、こうした体験は、若い吉村の脳裏に深く刻み込まれ、小説家を志す動機となりました。

吉村は、「死とはなにか」「生とはなにか」を主題に人間の本質を探究し、数多くの短篇・長篇を執筆しました。常設展示では、自筆原稿、ノート、書簡、初出誌、著作、写真、愛用品などにより、吉村の作品世界や創作背景を紐解きます。



エントランス



常設展示室

・書齋再現展示

吉村が昭和53年から亡くなる平成18年（2006）まで使用していた書齋を再現展示しています。書棚にある書籍は、吉村が生前に使っていたものをほぼそのままの配置で展示しています。



・映像コーナー

荒川区では、平成25年度から4カ年に分けて、吉村と親交があった編集者、作家、取材先で出会った方々を対象にインタビューを行い、証言映像として記録してきました。このコーナーでは、証言映像のほか、作品や人柄を紹介した映像など、全10作品をご自由に視聴できます。

	分類	映像タイトル	時間
1	吉村昭とは	作家 吉村昭の生涯	3:02
2		人間の「生」を見つめて 短篇小説と長篇小説	3:18
3		人間の「生」を見つめて 吉村昭の随筆	2:49
4		吉村昭と津村節子	3:16
5	紹介映像	吉村昭とふるさと「あらかわ」	14:26
6	証言映像	奥深い歴史を紐解く～吉村昭と長崎～	14:54
7		北へ注がれる視線～吉村昭と北海道～	15:03
8		証言 作家 吉村昭	11:53
9		編集者が語る 吉村昭の作品世界	13:02
10		瀬戸内寂聴・津村節子 吉村昭を語る	17:07

・吉村昭著作閲覧コーナー

このコーナーでは、吉村の著作や当館の刊行物を閲覧できます。

なお、図書の貸出は、3階「吉村昭著作・関連図書コーナー」をご利用ください。

特集コーナー

展示物写真自然災害と人間の営み 「三陸海岸大津波」と「関東大震災」 (会期:平成29年3月26日より)自然災害をテーマにした吉村の代表的な作品「三陸海岸大津波」(原題「海の壁」)と「関東大震災」を紹介し、これらの作品は、丹念な証言収集を経て著されており、その調査過程を自筆ノートやメモとともにたどります。

開館記念企画展

映像化された吉村作品の世界(前期:平成29年3月26日～5月17日、後期:5月19日～7月23日)

吉村は、少年時代より映画や役者に魅せられ、映画監督を志しました。その夢は、病気の影響で断念せざるを得ませんでした。後に小説家として発表した作品は、次々と映像化されていきました。

平成18年に79年の生涯に幕を降ろしてもなお、吉村作品の映像化は続き、その魅力は今も色あせることなく、現在の私たちを惹きつけてやみません。開館記念企画展では、吉村と映画の関わりに触れながら、映像化された作品に焦点を当て、作品から広がる世界をご紹介します。

関連イベントとして、大人のためのミニ上映会『桜田門外ノ変』(平成22年公開作品)、『密会』(昭和34年公開作品)も開催しました。

吉村昭記念文学館友の会

荒川区では、「吉村昭記念文学館」の情報を全国に広く発信していくとともに、この文学館が、全国の皆様から吉村文学の神髄に触れることのできる場として親しまれ、地域文化の醸成に貢献する施設となるよう支援することを目的として、「吉村昭記念文学館友の会」を設立し、会員を募集しています。
会員期間は、毎年度更新制とし、年度の末日(3月31日)までが会員期間となります。

年会費 個人会員 1,000 円 法人会員 3,000 円 賛助会員1口 2,000 円より

賛助会員は、友の会の趣旨に賛同し、寄附により活動を支援していただける個人・法人の方を対象。賛助会費は、文学館の運営費として活用いたします。

吉村昭記念文学館友の会会員数 (平成29年3月31日現在)

	個人会員・法人会員	賛助会員	合計
会員数	594	143	737

吉村昭記念文学館友の会設立趣意書

荒川区出身の作家・吉村昭氏は、徹底した取材と情感を抑えた文体による作品を数多く執筆し、「戦艦武蔵」や「三陸海岸大津波」などの記録文学、そして、「ポーツマスの旗」や「彰義隊」などの歴史文学の分野で我が国の文壇に確固たる地位を築きました。

吉村氏は、多感な時期を過ごした“ふるさと”である荒川区に対する強い思いを持ち続け、随筆や小説にその思いを度々記しています。

荒川区では、吉村氏の功績を後世に伝え、吉村文学を通して真実を見極める眼差しを学び、より多くの方々が文学に親しむとともに、荒川区を知り、郷土愛を育める場として、(仮称)吉村昭記念文学館の検討を重ねておりました。

この度、この文学館の設置目的を十分に満たし、さらに、図書館のような施設との併設を強く望んでおられた吉村氏の御遺志を尊重し、荒川二丁目に整備する複合施設に、平成29年春、文学館を開設することとなりました。

この施設は、全ての世代が活用できる図書館と、未来を託す子どもたちの施設と文学館が融合することにより、これまでの文学館の事業だけでなく、新しい事業の展開を目指しています。

私たちは、この文学館が全国の皆様から吉村文学の真髄に触れることのできる場として親しまれ、地域の文化の醸成に貢献する施設となることを支援するため、「吉村昭記念文学館友の会」を設立します。

平成27年 3月 7日

発 起 人

西川 太一郎
(特別区長会会長・荒川区長)

瀬戸内 寂聴
(作 家)

山崎 一 穎
(跡見学園理事長)

逢 坂 剛
(作 家)

吉村昭コーナー

各図書館には、吉村昭著作コーナーを設けています。

また、南千住図書館と併設している荒川ふるさと文化館の郷土学習室には、ゆいの森あらかわ吉村昭記念文学館の開設に伴い、平成28年12月18日に休止するまで、吉村昭氏の書斎机や直筆原稿、思い出の写真などを展示した「吉村昭の部屋」を設置。日暮里図書館では、吉村昭氏の直筆原稿や万年筆、眼鏡、写真、作品などを展示した吉村昭コーナーを設置しています。

平成25年6月11日には、全国文学館協議会共同展示・第10回ミニ企画展「吉村昭『海と壁』と『関東大震災』展」を御覧のため、天皇陛下が日暮里図書館に行幸されました。



日暮里図書館・吉村昭コーナー

日暮里図書館 吉村昭コーナー ミニ展示

展示内容	期間
全国文学館協議会 第3回共同展示 資料からたどる吉村文学と災害 - 『三陸海岸大津波』と『関東大震災』 -	平成27年2月20日(金)～29年1月31日(火)

荒川ふるさと文化館(南千住図書館と併設) 郷土学習室 「吉村昭の部屋」ミニ展示

展示内容	期間
「吉村昭と冬の北海道 - 『罨嵐』と『赤い人』 - 」	平成28年2月10日(水)～28年12月18日(日)

ウ 図書サービスステーション

近くに図書館が無く、図書館サービスが十分行き届きにくいと思われる地域でのサービスを充実するため、現在、2箇所の図書サービスステーションを設置しています。

図書サービスステーションでは、区立図書館に所蔵しているすべての図書・雑誌・CD等の資料を借りたり、返したりすることができます。開館時間は他の地域館と同じく、火曜～金曜は9時30分から19時30分まで、土曜・日曜・祝日は9時30分から17時まで。休館日は、月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日以降の平日)、年末年始、月1回の館内整理日です。

汐入図書サービスステーションは、南千住図書館の分室として、平成19年9月8日にべるぼーと汐入東館内に開設しました。この施設は、子育て世代を中心に人口が急増している汐入地域に位置し、利用者数が非常に多いことから、平成22年12月18日にフロアを拡張するとともに、蔵書の追加を行いました。さらに、拡張したフロア部分には「柳田邦男さんおすすめ絵本コーナー」を設置しました。また、同日付けで、社会福祉協議会が運営する「汐入おもちゃ図書館子育て交流サロン」が隣接して開設されました。

また、平成25年10月1日には、書架を増設し、文庫本や実用書、育児書などを中心に2,500冊程度蔵書を増やし、座って読める席も8席に増えました。

冠新道図書サービスステーションは、日暮里図書館の分室として、平成21年11月14日に冠新道商興会の一角に開設しました。

区では荒川区子ども読書活動推進計画(第三次)における施策の柱の一つとして「読書活動を地域の活性化につなげるため、地域の担い手の育成と読書環境づくりを推進する」ことを掲げ、「地域における読書環境の拡充」を重点事業とし、今後も、地域図書館のあり方と合わせて、図書サービスステーション、図書サービススポットの設置について検討していきます。

平成28・29年度 図書サービスステーション利用状況

		合計実績		一日当たり実績	
		27年度	28年度	27年度	28年度
汐入	登録者数(人)	3,856	4,370	13	15
	入館者数(人)	171,872	164,362	591	550
	貸出利用者数(人)	76,953	70,976	256	238
	個人貸出点数(点)	190,846	175,681	637	588
	図書蔵書冊数(冊)	13,715	13,795		
冠新道	登録者数(人)	1,679	1,997	5	7
	入館者数(人)	64,849	61,721	215	207
	貸出利用者数(人)	40,709	38,418	131	129
	個人貸出点数(点)	106,700	101,016	345	338
	図書蔵書冊数(冊)	11,566	11,888		

エ (仮称)宮前公園内新尾久図書館の建設

尾久図書館の老朽化により (仮称)宮前公園内新尾久図書館の開設準備を進めています。平成28年度には、測量・地盤調査等の基本設計を実施。平成32年の開設を目指しています。

コンセプト

- ・日常的に利用できる身近な図書館
尾久の特色を活かしつつ、日常的に利用できる身近な図書館になることが期待されています。
- ・地域における生涯学習活動の拠点
地域に関する資料、荒川区や地域にゆかりのある文学作品・文化芸術を選定・収集する。
- ・地域内の小・中学校、幼稚園、保育園、ひろば館、ふれあい館、高齢者施設等との連携・交流の拠点
子どもから高齢者まであらゆる区民の方が読書に親しめる機会の提供及びネットワークの充実。
- ・地域交流や情報収集・発信の拠点
区役所各部署と連携した取組の提供や、図書館ボランティアをはじめとする地域活動拠点。



新しい図書館ができる宮前公園は、西尾久と東尾久に位置する都市計画公園です。(仮称)宮前公園内新尾久図書館と同じく平成32年度の完成を目指しています。宮前公園は、防災公園としての性格を持ちつつ、保育園、テニスコートも併せて整備されることになっています。

スケジュール

平成29年度	実施設計
平成30年度	実施設計・建設工事
平成31年度	建設工事・竣工
平成32年度	開設